



オープンイノベーションって？

◆社外のアイデア活用／欧米に比べ実施率低く

Q－オープンイノベーションってなあに。

A－従来の主流は自社の技術やアイデアのみで画期的な製品やサービスを生み出す「クローズドイノベーション」でしたが、これでは消費者ニーズの多様化やグローバル化による競争の激化、製品の高度化など、急速な環境変化に対応することが難しくなってきました。そこで他の企業や大学、自治体とアイデアや技術、ノウハウなどを組み合わせ、革新的な技術や製品、サービスの誕生を促進していくという「オープンイノベーション」の概念が登場しました。



オンラインを使った意見交換に参加する人たち＝スケッチラボ

Q－今はどんな状況かしら。

A－企業の取り組みは確実に増えていると思われませんが、経済産業省の『オープンイノベーション白書』によると、オープンイノベーションに向けた活動の実施率は欧米企業が78%に上っているのに対し、日本企業は47%にとどまっています。その理由は人材や資金、時間、ノウハウの不足▷「社内の理解が得られない」「必要性を感じない」などといった理解不足▷自社の技術・アイデアの流出や利益分配時のトラブルへの懸念－にあるようです。

Q－自治体は後押しをしているの。

A－富山市は昨年9月、富山駅前の複合商業施設C i C内にオープンイノベーション拠点「スケッチラボ」をオープンしました。コワーキングスペースとしての機能のほか、交流会などのイベントを通じて多様な人材の交流を生み、新たなビジネスの創出につなげたいと考えているようです。また県新世紀産業機構（富山市）は、「産学官オープンイノベーション推進事業」で、産学官の垣根を越えて研究開発に取り組むグループを支援しています。さまざまな取り組みが実を結び、富山から多くのイノベーションが生まれてくることを期待したいですね。

（北陸経済研究所の藤貴伸が解説しました。）